

老舗名	ぶよお堂 E組 5班
Q.1	空襲や地震の後、どのように復旧したんですか。
A.1	<p>空襲については、日本では第二次世界大戦後70年が経過し、なじみがありませんので割愛させていただきます。</p> <p>さて地震ですが、大地震という観点からお話させていただきますと、皆様もご存じの通り昨年(2016)発生した熊本地震ですが、</p> <p>第一に国が「激甚災害の指定」をする事から、人、物、金が動き出します。まず直後は、被災に遭われた方々への、官、民共同での避難場所の確保、食料品の支給、医療支援等があげられます。</p> <p>第二段階として仮設住宅等の早期確保、並行して被災者の生活再建に向けた支援、災害廃棄物の早期処理、共土木施設(道路、河川等)の早期復旧、医療、福祉の早期復旧等があげられます。</p> <p>次の段階としては、被災企業への支援、商店街の復旧など、地域産業への支援、すなわち地域の雇用の維持支援があります。</p> <p>冒頭言いましたように、まず国(政府)が動く事によって予算が付けられ、官民共同での様々な復興事業が遂行されていきます。むろんその間、民間企業からの支援、被災地域の内外を問わず参加してくれる個人、団体のボランティア活動が、地域の復興に向けて欠かせないものである事は、言うまでもありません。</p>
Q.2	市町村の合併などで変更する地図は、どのくらいのスピードで作れますか。
A.2	<p>国土地理院発行の地形図を例にとると、以前は予算の関係もあり4~5年に1回の改訂でしたが、近年はコンピュータマッピングの普及に伴い、大きな市町村合併、新幹線、高速道路の開通など、大きな案件はかなり早く改訂するようになってきました。また民間地図会社の道路地図などは、大体1年に1回改訂されているようです。</p>
Q.3	地図が変わったら、その前の地図はどうするのですか。
A.3	もちろん使えない事はありますが、基本的には断裁処分になります。
Q.4	売っている地図の種類はどのくらいありますか。
A.4	<p>たとえば当社が販売している地図に、国土地理院(国の機関)が発行している地形図というものがあります。たとえば縮尺2万5千分の1地形図ですと、4400面(図名)位あります。その他国土地理院発行の地図の種類、図名を合わせると6000種はこえるのではないのでしょうか。ですからここでは、どのような地図があるか列記致します。</p> <p>冊子物：道路地図、日本地図、世界地図等。</p> <p>一枚物：地形図、都市地図、山地図、海図、航空図、都市計画図、古地図、触地図(目の不自由な方)、住宅地図、立体地図等</p>
Q.5	一番売れている地図はどんな地図ですか。
A.5	やはり日本全国を見ますと、国土地理院発行の地形図が売れております。
Q.6	どのような人が地図を買いに来ますか。
A.6	<p>登山をする方は登る山が載っている山地図、地形図、道路地図ならタクシー、トラックドライバーさん、単に地図好きな人など様々です。</p>
Q.7	外国の人は、どんな地図を買っていきますか。
A.7	<p>当社は店舗が日本橋にある為、昨今の外国人旅行者の増加から都市部の英語表記ガイドマップの需要が高いです。</p>
Q.8	見やすい地図にするために、工夫されている所はありますか。
A.8	<p>近年は、カラーバリアフリーという事で、目の不自由な方の為に、色使いを工夫しております。</p>

Q.9	電子地図を利用する人が多いと思いますが、紙の地図が必要とされるのは、どんな場面ですか。
A.9	まさしく大地震等、大きな災害が起きたときです。通信が殺到し電子地図等が使用不能になるからです。また登山の祭、電波が届かない場所もある為、紙地図が必要となります。
Q.10	これからの時代に合わせて、どのような開発や工夫をしますか。
A.10	皆さんもご存じの通り、GPS(衛星測位システム)を使って、軍事はもちろん民生では、自動車の自動運転等様々な開発が期待されます。